

- 参加会員:7社 IKO JTEKT NACHI NMB NTN NSK JBIA(準会員)
- WGリーダー:船橋 NTN(中国)投資有限公司
- 2015年度会議開催:5回

2015年の調査テーマ

包装印刷業界の研究と模倣包装印刷の実体調査

本調査の趣旨

エージェントによる過去の調査では模倣ベアリング本体のみにフォーカスされており、またレイドにおいて同時に押収された模倣パッケージの枚数が如何に多かろうとも、その調達・供給について追及調査されることはなかった。

従って、模倣包装印刷についての知識は当業界の中には少ない。

今回の調査の目的は、包装印刷について知識を得つつ、模倣包装印刷をどのように防ぐか、どのように摘発していくか、などを学習することにある。

◆模倣印刷は模倣品本体に商品価値を与える。

- 多くの商品と同様、市場に流通する模倣ベアリングは模倣パッケージに入っている。



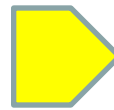
- 模倣ベアリング(模倣パッケージ入り)は、模倣カートンボックスで出荷される場合が多い。



2015年度 ベアリング専門委員会・WG

◆ 模倣ブランディング (模倣のコア工程)

- 模倣ブランドを本体へレザーマーキング: 本体へブランディング



- 模倣パッケージ印刷: パッケージへのブランディング



模倣印刷についての知識、情報が乏しいため、具体的なステップアップの計画なく学習を開始

第1回会合：現地日系印刷企業による講演

中国印刷市場、パッケージ印刷について

第2回会合：日系クライアントの多い調査会社による講演

中国模倣品印刷業者の実体、及び摘発事例

第3回会合：欧米系クライアントの多い調査会社による講演

欧米企業の模倣印刷業者に対する摘発事例

第4回会合：2015年度学習の整理

第5回会合：2016年度計画の検討

現地日系印刷企業による講演 中国印刷業界概要

- 会社数: 約10万社、中堅以上の約3千社が売上の半分以上を占める。
- 地域: 三大集積地がリードも、2011年から2013年にかけて、
内陸部(山西、安徽、江西、河南、湖北、湖南)への移転が加速。
- 生産: 7割以上を包装印刷が占める。
- 今後の動向:
 - ・競争の激化、企業優劣の2極化が急速に進む。
 - ・自動化装置の増加、デジタル印刷機の増加(アナログから移行)。
 - ・人件費高騰から西部都市への移行が更に進む。

現地日系印刷企業による講演 パッケージ印刷における対策

■ 最小コストで効果

- ホログラムなどの付加的手段でなく、通常の印刷の中で対策を実現。
- 予算内で実施可能な対策を印刷企業に相談すべき。
- 印刷のランニングコストを増やさずに実施できる対策もある。

■ 複数の印刷技術の組合せによる模倣防止

- 模倣業者の限界: 本物をスキャンしたデータは加工され、素人目には本物と見分けがつかなくなるが、このデジタル技術が限界となり得る。
- セキュリティデザイン: 複写/復元が困難なデザイン、特殊網点、真贋判別用デザイン
- 様々な新技術: 高精細印刷、マイクロ文字、型押し、浮き出し、特殊インクなど

■ 模倣品防止策の運用が重要

- 効果を見つつ運用、単純に100%模倣を防げるわけではない。
- 模倣レベルに応じた手段の選択(複写機の高性能化 vs 印刷技術の向上)。
- 防止策を施してある事自体を見破られないように。
- 模倣防止手段の情報管理。

現地日系印刷企業による講演 模倣パッケージについて(質疑)

- ◆ 本物の印刷データが委託先の業者から漏洩している可能性があるのではないか？
包装の模倣は素人目には本当に見分けが出来ない。
- 委託された印刷業者でのデータの扱いはどうなっているのか？
発注者による印刷業者への商標の使用許可などはどうなっているのか？



- ◆ データの漏洩よりも、本物をスキャンニングしている場合が多いと推測。
- ◆ スキャンしたデータはデジタル的に如何様にも加工出来る。しかし、デジタル的に再現されたものには印刷精度において盲点がある。
- ◆ 色にも対策有。色種選択と塗順などの工夫により模倣が非常に難しい最終色とすることが可。この技術はどこにも現われない。色は写真による真贋判定に有効。
- 当社は、発注者との間での誓約書を交わし、データも使用後は破棄する。
しかし、一般的には、発注者は、データを印刷業者に渡した後、データを回収も破棄もさせず放置しているのではないか。
- また商標の使用許可のもとで印刷する業者は通常いないと推測。

2015年度 ベアリング専門委員会・WG

日系クライアントの多い調査会社による講演

■ 模倣品印刷業者の種類と地域

- 段ボール印刷業者：東莞市に集中。正規品模倣品とも受注。
- パッケージ印刷業者：内陸部（山西、安徽、江西、河南など）と広東省に集中。
- ラベル印刷業者：深圳市に多い（電子部品用）。

■ 模倣印刷業者の動機

- 模倣の印刷が違法と知らない。
- 摘発リスクは小さい（タイミング、罰金）。
- 売上（2極化の影響か？）。

■ 事例紹介

- 摘発した模倣品倉庫内にラベル印刷機械（2012年）
- 工場摘発からの派生捜査で判明、ラベル印刷業者を摘発（2012年）
- PSB自主レイド：複数ブランドのパッケージ印刷業者の刑事摘発（2015年）
- 全体に包装上での商標権侵害への関心が薄い（クライアント？調査会社？）。
- 事例からアナログからデジタル（複数ブランドの印刷）への移行が見える。

欧米系クライアントの多い調査会社による講演

■ 欧州企業の模倣品対策(傾向)

- 以前は、製造工場、販売業者、倉庫物流のいずれかの切り口から調査を入れサプライチェーン(生産、印刷、物流、卸/小売り、輸出)を割出して全体に対して摘発を実施
- 現在は、オンライン上のデータ分析と収集情報から、仲介業者を特定のうえ、生産、印刷、物流のサプライチェーンを調べ、主要なサプライチェーンにフォーカスして、その全体に対して摘発を実施

■ 事例

- 既犯者(刑事)を追跡、製販サプライチェーン(印刷工場、加工工場、偽造防止ラベル印刷工場、倉庫等)を突き止め11業者摘発(2009年)
- 物流センターの宛先調査から、仲介業者と製販サプライチェーン(包装印刷業者、倉庫、店舗、輸出業者)を摘発(2012年)
- オンライン調査(B to Bのサイト←タイから注文)から印刷工場を絞り込み仲介業者と最大規模の包装印刷業者(東莞、倉庫は深圳⇒海外)を摘発(2015年)

欧米系クライアントの多い調査会社による講演(質疑)

Q: パッケージは紙、しかし押収時の点数は多い。販売金額だけでなく数量にも刑事の閾値があるが、実際に数量だけで刑事案件となることはあるのか？

A: 一般的に、刑事案件の判断基準は金額のみ。しかし、数量だけで刑事案件とし、更にサプライチェーン全体に捜査を進めるPSBも幾つかある(深圳など)。

Q: 日系企業の摘発では製品本体の押収を重要視されることが多いと感じる。欧米はどうか？

A: 欧米企業は、仲介業者(多くは首謀者と同じ)にまずフォーカスし、印刷も含むサプライチェーンの構成を調査のうえ、全体に対して一度に摘発を行うことを重要視する。

Q: 模倣印刷を常習とする印刷業者のリストは持っているか？

A: オンライン分析などからの情報は持っており、オフライン調査で活用される。

模倣印刷業者の多い地域として次を列挙: 温州市(瑞安市、蒼南県)、広州市、
深圳市、東莞市、無錫市

2015年度の経過的なまとめ

模倣包装印刷をどのように防ぐか？

過去：ベアリング業界では、既存の模倣対策（ホログラム、特殊インクなど）はコスト制約から全く検討の内に入らず。

現在：印刷がデジタルの時代となり技術も進歩。印刷企業の高度な技術と品質管理により、コストを抑えたうえで模倣対策を施したパッケージ印刷が可能。十分に検討可。

課題：企業内で模倣対策印刷の管理維持を何処が（誰が）預かるか？

模倣印刷の摘発は？

従来：模倣品は摘発時に模倣パッケージに入っているというレベルの認識。本体優先。

欧州企業：ブランド力（プレミアムブランドと自称）は企業の生命線。知財権保護よりも、ブランドを守る（Brand Protection）ことがはるかに重要。従って模倣パッケージも徹底的に排除すべきものという認識。

課題「認識の転換」：パッケージはただの包装紙ではなく、企業とそのブランドの顔であることとの認識。模倣パッケージの氾濫は競争力低下につながる。

課題「費用の増大」：模倣パッケージ印刷業者への刑事罰は、サプライチェーン全体摘発の中でのみ実現可？